

平成21年度

入場無料

鳥取県文化功労賞 受賞記念巡回展

22年

1/16(土)~24(日)

とりぎん文化会館
(展示室)

開館時間 10時~18時

22年

2/6(土)~14(日)

倉吉博物館
(展示室4)

開館時間 9時~17時
(入館は16時30分まで)

22年

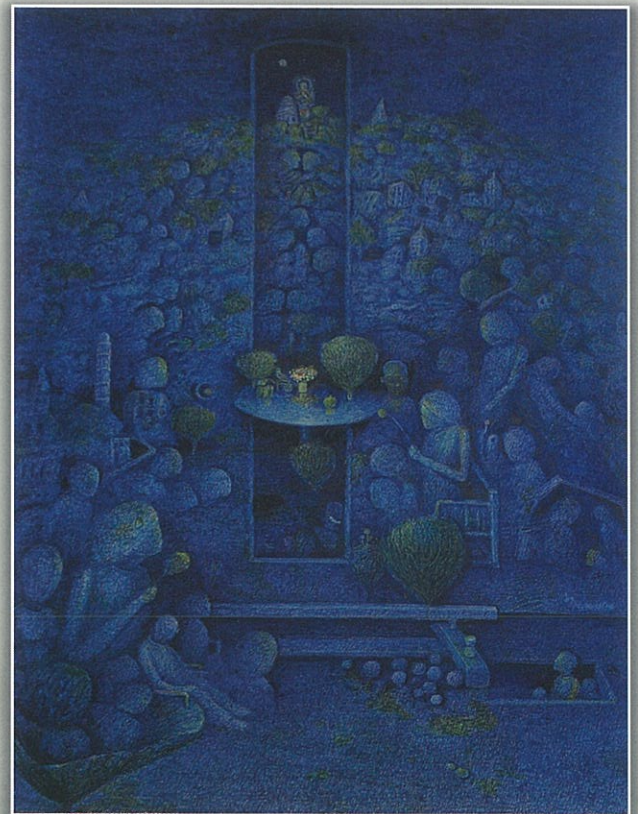
2/19(金)~3/1(月)

米子市美術館
(第1展示室)

開館時間 10時~18時



民俗学 **森 納**



水彩画 **越野 邦夫**



音楽 **村尾 義晴**

主催・鳥 取 県

お問合せ・鳥取県文化観光局文化政策課 電話(0857)26-7134 ファクシミリ(0857)26-8108 E-Mail: bunsei@pref.tottori.jp

鳥取県では平成15年度から優れた芸術文化活動により、広く文化の振興に功績のあった方の功績を讃えて表彰し、県民文化の向上に資することを目的として、鳥取県文化功労賞を設置しています。本巡回展は、平成21年度に受賞された方の功績と活動を広く県民のみなさまに紹介するものです。

[本年度受賞者のみなさん]



森 納(もり おさむ) **民俗学(鳥取市)**

昭和3年米子市生まれ。米子医学専門学校卒業。

鳥取県史、鳥取県大百科事典の編纂委員、県立博物館協議会委員等を務め、郷土の民俗学研究に功績を挙げる。内科医院経営の傍ら、郷土の医師や民間薬、俗信・おまじないなどを調査するとともに、執筆活動を行い、多くの著書を出版。

森医院理事長、日本医史学会評議員、日本民俗学会員、日本地名研究所会員、鳥取民俗懇話会会長、国府文化協会会長などを歴任。日本医師会最高優功賞(昭和59年)、鳥取市文化賞(平成4年)、日本自費出版文化賞(第2回)(平成11年)、勲五等双光旭日章(平成14年)、鳥取県教育委員会表彰(平成18年)などを受賞しており、その実績は県内外で広く知られている。

著書は「因伯の医師たち」(昭和54年)、「因伯くすり雑考Ⅰ、Ⅱ」(昭和59年)、「続因伯の医師たち」(昭和60年)、「塞神考—因伯のサインカミと各地の道祖神—」(平成2年)、「日本盲人史考」(平成5年)など多数。



越野 邦夫(こしの くにお) **水彩画(北栄町)**

昭和10年東伯郡北条町(現北栄町)生まれ。昭和33年鳥取大学卒業後、県内の小・中学校に勤務。以来、主に中学校の美術教師として勤務しながら創作活動に取り組む。昭和42年慶応義塾大学文学部(通信教育課程)卒業。

倉吉市美術展覧会及び鳥取県美術展覧会の審査員の一方自らも長年出品。

県内にあっては独自の水彩画法を確立し、鳥取県的美術界に新風を吹き込み、後進育成にも努めるなど、県内でその存在は確固たるものがある。

全国的にも、1979年(昭和54年)、「第22回安井賞展」にて『或る風景(2)』が賞候補となり、また、1986年(昭和61年)、「第45回水彩連盟展」にて『在(1)・(2)』が文部大臣奨励賞を受賞するなど、長年にわたり多くの実績を残している。



村尾 義晴(むらお よしはる) **音楽(米子市)**

大正9年米子市生まれ。東京音楽学校(現・東京芸術大学)甲種師範科卒業。

平成4年度より米子市文化ホール主催の童謡講座講師として毎月1回の講座で約600名の受講生を指導し、今もなお高い人気を得ている。20年度まで鳥取わらべ館及び米子人生大学の童謡講師としても活躍。昭和63年には、「よなご童謡の会」を結成し童謡の普及発展活動に力を尽くした。

また、作曲家として昭和30年NHKラジオ歌謡で「桐の実」(星野哲郎作詞)が入選。歌手の小沢章一氏が歌う童謡「公園の忘れ物」(星野哲郎作詞)が収録されたアルバム「夢は今もめぐりて」が第43回日本レコード大賞企画賞を受賞。他に「お昼ねなんね」、「杉野頭」(智頭町)、童謡、鳥取県内の校歌など数多くの作品を作曲。

満90歳を迎える現在も意欲的に芸術文化普及活動に取り組んでいる。

[各会場へのアクセス及びお問合せ先]



とりぎん文化会館

鳥取市尚徳町101-5 電話0857(21)8700

倉吉博物館

倉吉市仲ノ町3445-8 電話0858(22)4409

米子市美術館

米子市中町12番地 電話0859(34)2424